

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200090	事業の開始年月日	平成18年10月1日	
		指定年月日	平成18年10月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ白寿庵湘南台			
所在地	(〒252-0805) 神奈川県藤沢市円行774-1			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	5名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成26年12月2日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月27日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ご利用者様一人一人に合わせた対応とケアを行っています。 施設の周りは緑が多く川があるなど自然環境に恵まれていますので、気候が良く天気の良い日には、利用者の散策に出かけています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年12月16日	評価機関 評価決定日	平成27年1月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇利用者本位のケアを目指した理念の実践 ・2年前職員間で話し合って作成した理念、「利用者が生き生きと笑顔で過ごせるよう、一人一人の心に寄り添って、その人らしい生活の実現を目指す」に則り、利用者本位のケアの実践に取り組んでいる。 ・利用者は、お茶会やカラオケ、ぬり絵、囲碁、将棋などそれぞれ好みのレクリエーションに参加して生活を楽しんでいる。 ・職員は、利用者の個性を活かしながら、庭の水やりや洗濯物たたみを共に行い、その人らしい生活が継続できるよう柔軟に対応している。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇ターミナルケアへの取組み ・利用者の看取りを実際に体験した結果を参考に、職員は更に研修でターミナルケアについて学び、その成果を、法人の研究発表会で披露して意識の向上を図っている。 ◇年間計画に基づく30分研修の実施 ・年間の研修計画に基づき、利用者への接遇や身体拘束をしないケア、ターミナルケア、感染症などについて、職員が順番に講師となり全職員を対象に毎月30分研修を行っている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ白寿庵湘南台
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、2年4ヶ月経過し、共有と実践が出来ている。	・職員が2年前に作成した「利用者本位のケア」を目指した理念を、リビングに掲示し、職員間の共有してその実践に努めている。 ・理念を実践している成果から、利用者に笑顔が見られるようになっていく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。自治会の活動（自主防災・竹の子御飯・日帰り旅行・夏祭り）等に参加している。	・自治会の定例会に出席しており、職員が自主防災訓練に参加し、利用者と一緒に食事会や夏祭りにも参加して地域と交流している。 ・ハーモニカやクラリネット演奏のボランティア来訪時には利用者も一緒に歌を歌っている。	・今後更に、近隣住民や、学校・幼稚園・保育園などとの幅広い交流が期待されます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベントにて認知症サポーター講座や介護教室の実施。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開き、皆様の意見を聞きサービス向上の為、利用者本位のケア実践を行っている。	・利用者や家族、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員が出席し2か月ごとに開催している。 ・事業所の取り組み状況の報告の後、参加者から地域活動の紹介があり参加し、また、食事サービスの要望等には改善に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小規模連絡会にて連絡を密にして、又、H27年度には介護保険課も運営推進会議に出席予定です。	・市の介護保険課の窓口には、介護保険の申請や運営推進会議録を持参し、内容によっては地域包括支援センターとも電話で相談している。 ・小規模連絡会には、介護保険課からも出席しており、連携を密にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回のスタッフ会議にて、H26年度は11月に職員全員（研修に出席しなかった人には、資料と口頭）で研修実施済み。	・毎月の30分研修で、職員は身体拘束をしないケアについて、改めて確認し合っている。 ・リビング出入口のドアは、施錠をやめ、帰宅願望のある利用者それぞれ個々に対応して、行動を制限しないように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の会議にて、H26年12月に「虐待の防止について」の研修実施予定です。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は研修を実施している。登録されている利用者様の2人は成年後見人制度を使っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解して頂ける様に説明すると共に納得される様に配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で、利用者様代表と御家族代表の意見を聞き、運営に反映させている。	・運営推進会議に利用者や家族に順番に出席してもらい意見を聞いている。利用者とは居室で1対1になり、家族には電話で意見を聞いている。 ・洗濯物についての要望など、検討してできることは直ちに運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員全員（各自）と、評価面談時に運営に関する意見や提案を聞き、反映させている。	・月1回のスタッフ会議や、管理者との個別面談で、職員の意見や提案を聞いている。 ・業務の実施要領など、提案された職員意見は検討して、運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員と面談を行い、意見を聞き、各自が向上心を持って働ける様、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場研修として、30分研修の実施と会社全体で取り組んでいる。スキルアップ研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	藤沢市小規模連絡会で市内の同業者との交流を持ち、情報交換を行って行きたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者様の訴えを時間をかけて傾聴し、話を聴く様に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の訴えに耳を傾け、要望や困っている事等、問題解決に向けて十分に聞く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族が何に困っているのか、どの様な対応が必要なのか見極める様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービス提供開始前の見学は、随時行っています。また、体験御利用期間を設け、ゆっくりサービスに馴染んで頂ける様に配慮する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の介護のついて、御家族へ細かい説明やアドバイスをを行い、支え合う関係作りを実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着に根ざして、御本人に馴染み深い場所、町、物、人等、出来るだけ関わりが続くように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・友人や親戚の訪問したときは、居室や応接室でゆっくり過ごしてもらうなど、関係が途切れないように支援している。 ・職員が利用者の馴染みの店で、買い物に付き添うこともある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士での、顔馴染みの関係が築けている。冗談を言われ笑い合ったり、歌集を一緒に見られたりと微笑ましい様子がみられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了された後は、新しいケアマネージャーと連絡を取り合い現状を伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	御利用者様一人一人の思いや意向を受け止め、その人らしい暮らしが出来る様に努めている。	・利用者一人ひとりの意向は、1対1になれる居室や入浴時に聞くように努めている。 ・意向の把握が困難な方には、時間を変えたり利用者の表情で汲み取り、また、家族に電話で確認したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族や御本人から話を傾聴し、ケアマネージャー中心に情報を収集し全職員で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者様の自宅での様子について御家族と連絡を取り合い、また、訪問を通じて心身の状況の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、御利用者様の情報交換を行い、御本人にとってより良いケアサービスの在り方を検討していく。	・本人や家族から要望を聞いて、担当者会議で検討して、介護計画書を作成している。計画書は半年から1年で、家族、主治医や職員の意見を聞き、カンファレンスで見直している。状況が変わった時には都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全体で、御利用者様の言動や日常の様子を観察し、気づき情報を共有する様に努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通いを中心としたサービスの他に、御利用者様の必要なニーズに合わせて泊まりや訪問等、小規模多機能ならではのサービスを提供する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加し、協力出来る様に支援していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診に出来るだけ同行し、連絡・相談している。往診の医師とも連絡・相談を積極的に取り御利用者様の健康管理を実施している。	・かかりつけ医での受診を支援しており、家族が同行する場合も報告を受けて情報を共有している。状況によっては職員が付き添っている。 ・訪問の協力医や歯科と契約している利用者もおり、連携して健康管理をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて看護師と連絡・相談し御利用者様の個々の状態に応じた支援に努めている。また、受診にも同行し情報を共有し、健康管理の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御利用者様が退院後、病院の医師、相談員と連絡を取り合い、情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医と連絡を取り合い、今後の支援について検討を重ね職員全体や当事業所で出来る事を話し合い、実施に繋げている。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に事業所でできることを説明して確認書もらっている。利用者が重度化した場合は、医師や看護師の意見を聞いた上で本人・家族と十分話し合ってから方針を決めている。 ・看取りの経験もした職員は、ターミナルケアの研修や法人内での研究発表に参加している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事業所全体で、30分研修や救命救急講習を職員全体で受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難経路、避難場所について、スタッフ間で常に話し合い、訓練には地域の方の協力を得て行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・分かり易い「通報フローチャート」を事務所と居間に掲示しており、避難訓練では、車いす利用者を含め全員が駐車場に退避している。 ・飲料水5日分と食糧、毛布、非常灯、懐中電灯、ガスコンロ等を倉庫に備蓄している。 	運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、今後、避難訓練に地域住民の参加が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人が御利用者様の立場に立って適切な声掛け、対応に留意している。また、プライバシーの保護や個人情報に対する取り扱いに十分に配慮し、保管場所には鍵をかけて保管している。	・職員は入社時に接遇マナーの研修を受けて業務につき、その後は30分研修で常時振り返っている。 ・「利用者は人生の先輩」としてプライドに配慮し、適切な言葉で声を掛け、利用者が自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重した支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様がその人らしく、御自身のペースで生活し、過ごして頂けるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、希望に添えるように支援している。ヘアカットには、訪問利用を利用し実施している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様の状態に合わせた食事を提供している。季節により行事食や月に1度、外食を実施している。	・調理専門の職員が利用者の嗜好や健康状態に合わせた調理方法で、時には目先を変えてお重に詰めるなどの工夫をしながら提供している。 ・利用者はミニキッチンで白玉団子などのおやつ作りに参加し季節毎の行事食や外食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者様の食事の摂取量や形態、好み等、情報収集し食事の献立に反映させている。また、日々の食事や水分の摂取量を把握し、調理担当者 と連携している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御利用者様の個々に合わせた食後の口腔ケアを実施している。また、訪問の歯科を利用し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートで各自の排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレでの排泄を促している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を家族との連携のもと行っている。 ・排泄の誘導・介助や確認などには不安や羞恥心、プライバシーに配慮して支援している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介助を必要とされている御利用者様には、排泄表を用いてポータブルトイレにて排泄を促している。自立されている御利用者様には、それとなく聞き取り職員全体で把握し、場合によっては水分を多く取ってもらうなどの配慮を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個別の入浴が基本。入浴回数やお湯の温度等、希望通り入浴を楽しんで頂ける様に目指している。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日入浴を好む利用者や入浴時間の長短など個別の希望に沿って支援し、満足な言葉が聞けるように心がけている。 ・浴室の入口にカーテンを設置し、温度差やプライバシーに配慮している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者様一人一人の状況に合わせた休息の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今まで以上に薬の目的や副作用、用法や用量について、理解を深める為年2回位の勉強会を考えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御利用者様一人一人の能力に合わせて生活歴や力を活かした役割をもって、日々の暮らしが出来る様になっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度、外食を実施し、天気の良い日には散歩に出掛けたり、花に水やりを行ったりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気が良ければ近くの引地川沿いの遊歩道を散歩したり、庭の花への水やりなど季節を感じながら、下肢の筋力低下の予防を心がけている。 ・月1回程度は外食を楽しみ、季節ごとに花見やバラ園に出かける等、日帰り旅行を楽しんでいる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には在宅サービスであり、金銭的には関わりは持っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な支援は出来るだけ行うようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温かみのある家庭的な空間作りを提供して行く様に努めている。季節による飾り付けや、御利用者様と作品を作り飾っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・南西にテラスを配した居間は明るく、川沿いの緑が見える。居間の飾り付けや、洗面所の花で、季節感を取り入れている。 ・トイレに次亜塩素酸ナトリウムの入った蓋付きボックスを置き、感染症の予防に努めている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに座る席、ソファ、テラス等を活用し、御利用者様個々の希望に添える様に空間作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットの位置や私物の持込など、御利用者様の意向が充分反映される様に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室のドアに花柄の表札をつけて利用者が部屋の区別が出来る様に配慮している。 ・ベッド、エアコン、加湿器、ナースコール、照明器具、カーテン、整理ダンス、布団を備えているが、好みの枕など持ち込みは自由である。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者様の個々の能力をアセスメントし、一人一人に合わせた方法で出来る事を実施している。		

